



伊吹おろしの強風を受けながら、揖斐川堤防を力走する選手 = 輪之内町福東地先

『寒風きって西美濃路を力走！』 第36回田口福寿杯 中日西濃駅伝

- 西美濃路にたすきをつなぐ「第36回田口福寿杯中日西濃駅伝」が2月15日（日）、大垣市浅中公園陸上競技場をメイン会場に開かれた。大垣市陸上競技協会、同市、海津市、輪之内町、中日新聞社でつくる実行委員会の主催。30年以上続く、中部地区屈指の一般大衆駅伝で、今回は一般A、一般B、高校男子、女子の四部門に216チーム約1,341人が出場。アスリートたちは、伊吹おろしが吹く冷たい中、揖斐川・長良川に挟まれた輪中地帯を駆け抜けた。

スタート前の大垣市は時折小雨がぱらつき、気温は約7℃。学校名やチーム名の入った色とりどりのユニフォームを着て、カラーのたすきを肩にかけた「一般A・高校男子」74チーム（7区間44.2キロ）の第1区走者たちは、大垣市浅中公園陸上競技場を午前11時の号砲を合図に一斉にスタート。

揖斐川右岸堤防道路約1キロ区間がコースに設定されているため、揖斐川第二出張所も沿道に立ち、大会の開催状況を確認するとともに選手に声援を送り、また、河川パトロール車で巡回しながら、川の安全利用などについて点検をした。



木野輪之内町長の号砲で勢いよくスタートする一般Bのランナーたち
= 輪之内町役場西（輪之内町提供）